

ヘルシーな健康応援ナビ

NAVI



健康課
市役所内
☎23-3515 FAX 23-3810
あつみライフランド
☎33-0386 FAX 33-0319

乳幼児の耳の健康と発達

耳の「聞こえ」の仕組みについて

普段聞いている音は、空気の振動です。つまり、「聞こえ」とは、耳から入った空気の振動が鼓膜から耳の奥にある器官へ伝わり、そこから脳に信号が伝えられて成り立っています。



出生直後は耳に羊水が残っていることもあり、成長と共に吸収され、1歳ごろには大人と同じ「聞こえ」になっていきます。

子どもの難聴について

1000人に1人程度の頻度で両耳が難聴の赤ちゃんは生まれています。最近では、新生児聴覚検査を受けて、難聴が発見される子どもが増えています。

新生児聴覚検査とは？

新生児聴覚検査とは、産婦人科や助産所にて、出生直後の赤ちゃんに行う「聞こえ」の検査のことです。AABR(脳波を診る方法)とOAE(耳から出る小さな音を測定する方法)の2種類があり、子どもの難聴の約8割が、いずれかの検査によって発見されています。

しかし、検査の結果が「パス(聴覚反応あり)」だったとしても、1歳前後までに聴覚は変化することがあります。

なぜ聴覚検査が必要なのですか？

難聴であると、聴覚を通して脳に伝わる情報が少ないため、言語発達に遅れが出ます。もし難聴であっても生後6カ月までに補聴器の使用などの適切な治療や療育を始めた



場合は、そうでない子どもと比べると言語発達の面で差が出るのが分かっています。そのため、子どもの「聞こえにくさ」を早期に発見し、訓練を始めることが大切です。

後天性の難聴の原因

後天的な難聴が発生することがあるため注意が必要です。

● 浸出性中耳炎による難聴

鼓膜の奥の中耳に体液(浸出液)がたまる病気です。液体量が多いほど、聴力の低下につながります。急性中耳炎は痛みや発熱を伴いますが、浸出性中耳炎では、自覚症状が乏しく、特に幼少期には見過ごされやすいので、お子さんの様子を注意深く観察する必要があります。



お手軽3分フィットネス ⑬9

お手軽3分フィットネス集 スポーツ課などで配布中!

お尻のストレッチで腰痛を解消しよう!

長時間椅子に座っているとお尻の筋肉に強いストレスが掛かり、腰痛につながります。お尻のストレッチで筋肉の張りを解消し、腰痛を解消しましょう。

スポーツ課 ☎23-3531



- 1 椅子に浅く座り右膝の上に左足のかかとを乗せます。
- 2 右足の膝を両手でつかみます。
- 3 ②の状態から、上体を前に倒し、お尻が伸びているのを感じたら、その姿勢を30秒キープしてください。 ※①から③を左右で数セット行う